大阪のまちづくりグランドデザイン
ベイエリアのまちづくりシンポジウム

万博の機会を活かして取組が進む
大阪のベイエリアのまちづくりや魅力を発信

大阪府、大阪市、堺市は、2050年に向けた大阪全体のまちづくりの方向性を示す「大阪のまちづくりグランドデザイン」を令和4年12月に策定しました。

このグランドデザインで示すまちづくりの方向性やこれからの大阪のまちづくり等を広く発信し、まちづくりへの理解・関心を高めるため、シンポジウム「大阪のまちづくりグランドデザイン」（大阪府、大阪市、堺市主催）を、昨年度に引き続き開催しました。

今年度は、大阪・関西万博を契機に、世界から大きな注目を集めるものと期待が寄せられている大阪のベイエリアのまちづくりを取り上げ、基調講演や沿岸市の取組発表等を行いました。

日時：令和6年9月13日（金）13:30～
場所：なんばスカイオコンベンションホール
（大阪市中央区難波）

プログラム１　**基調講演**

「大阪広域ベイエリアのまちづくりについて」

講師：佐久間 康富 氏
和歌山大学システム工学部 教授・学長補佐

■大阪のまちづくりの現在地

大阪のまちづくりは、まず万博、その後、なにわ筋線、北陸新幹線、リニア中央新幹線と、人々が移動しやすくなる大きなプロジェクトが続きます。大きな可能性を期待する一方で、どんどん通過してしまう、関空から大阪を素通りする、ストロー効果で住民や企業が転出してしまう懸念もあります。リニアができれば大阪は東京の通勤圏になり、「東京の郊外」になってしまうことが心配です。

大阪は、どういうまちを目指していくのか、大阪ならではの「新しい価値」が生まれる場所を、民間の力も借りながら、どう作り出していくかを考えていかなければなりません。

■人口減少下のまちづくりの課題

人口減少への対応として、全国の自治体で、地方創生総合戦略が策定されています。全国の自治体で戦略に位置づけられた取組を行えば、人口が下げ止まる、人口減少が緩やかになるといったことを書いています。全国の人口が減少するなか、その目標の実現には無理があり、人口減少が下げ止まる状況にはありません。

人口減少社会の一つのモデルとしては、適度な世代構成、世代の更新が目標になり得るのではと思います。人口減少下のまちのあり方というと、ストック活用が原則だと思いますが、過渡期としては、若い人を受け入れるために、既成市街地と関係づけながら、人口構成を大きく変えない小規模開発を連鎖させていくことが必要です。地域全体としては小さくなるかもしれませんが、若い人が入ってきて未来に続いていく展望が持てるかどうかが重要です。

都市の経営上は、人口ピラミッドに世代の多寡、偏りがあると、社会資本を投資しても非効率になります。人口ピラミッドが長方形になるようなバランスの良い構成になれば、効率的です。人口構成をどう整えていくかということは、都市経営の展望すべき課題になるのではないでしょうか。

人口増を望むよりも、バランスのよい人口構成により、世代が更新されることで将来を展望できる期待感が求められるところではないでしょうか。世代更新への期待と持続可能な人口構成がポイントになると思います。

■南部大阪の住宅地の動向

南部大阪都市計画エリア内のニュータウン、特に戸建て住宅地の更新状況に着目すると、まちができて40年以上経過しているにもかかわらず年少人口割合が増加しているまちがあります。人口は減少していて、お年寄りの割合も増えていますが、年少人口割合も増えています。実際に話を聞くと、同じ市内で移り住んでいる方が多い。ニュータウンの、南部大阪の世代の更新は、市内、近隣にお住まいの方によって、住宅地が更新されている状況がうかがえました。

貝塚市では、イベントに市民割の料金設定があります。観光振興ビジョンでは、まずは市民に訴求して、それから広域、インバウンドに広げていくとしています。まちづくりの観点、世代継承の観点からは、まず市民や近隣の市町の人に訴求することに可能性があるのではないかと思っています。観光施策とあわせて住宅施策、あるいは移住定住の情報発信と重ねていくことで、まちづくりの観点からは、非常に期待できる枠組みになっているのではないかと思います。

■まちに住む喜びを感じる舞台

その場所ならではのなりわいや暮らし、営みがあり、次の世代に受け継がれていくことが大事です。そして新しい価値を展望するうえでは、交流が大きな手がかりになります。自分たちと違う他者と関わりを持つことで、自身の新しい価値に気づく。新しい価値を生み出すには他者との関わりが欠かせません。

こうした他者と関わり、新しい価値が生まれることが期待できる場所が都市であり、それがよく表れるのが公共空間です。大阪、ベイエリアでは、りんくう公園、泉南ロングパークをはじめとして、民間活力を導入した魅力的な公共空間が多く広がっています。

人口の多い、少ないではなく、他者と出会う、異なる他者とかかわる場を舞台として、他者に対して開いていく、関わるということで、「新しい価値」が生まれます。そして、通過点とならない、世代が継承していく展望を持てるまちとなっていくことが期待されます。

プログラム２　**「大阪広域ベイエリアのまちづくり紹介」**

１．「沿岸市町の取組やエリアに広がる取組の紹介」大阪都市計画局

ベイエリアで実施されている様々な取組を、各市町ひとつに絞って紹介する「大阪広域ベイエリアまちづくりマップ」を配布し説明（**別添「配布資料」参照**）。

各市町の取組は「大阪広域ベイエリアまちづくりビジョン(案)」の“みがく”取組に相当し、加えて“つなぐ”取組として、自転車や海上交通の取組についても紹介しています。

これらの取組をきっかけに、ベイエリア、泉州地域、それぞれの市町に関心を持っていただければと思います。

２．「グレーターミナミの取組紹介」大阪商工会議所

大阪府南部地域（泉州、南河内）と大阪都心南部（新今宮エリア、阿倍野・天王寺・上本町エリア）を一体的な都市経済圏として活性化することにより、大阪の北部と南部における経済偏差を是正し、全体の経済成長に貢献することをめざしています。

グレーターミナミはおいしいものも自然も歴史も文化もある、可能性のある地域。それを一体的に発信することで、より多くの皆さんにこのエリアへ足を運んでいただいて、この地域の活性化に繋げられる可能性を感じています。

2022年8月にグレーターミナミの機能強化に関する３つのプロジェクトを打ち出しています。

１つ目がグレーター・テロワール。豊富にある自然や豊かな農産物、関空や都心に近い利便性を活かした新たなライフスタイルや広域的な観光振興をめざそうというもの。

2つ目がグリーン・ベイ。堺泉北港等、臨海部に産業集積があり、そこで省エネ等に取り組むことにより、エネルギーの最適利用を図る新たなベイエリアが創出できるのではないかということ。

3つ目が、外国人誘致・居住。この地域により外国人の方に来ていただけるような仕組みを構築できないかと検討を進めております。

2023年11月には大阪商工会議所にグレーターミナミ推進委員会を設置しました。様々な知見のある方に委員をお願いし、グレーターミナミの活性化に関心のある企業や各地域の商工会議所にも参加いただいています。

すでに、委員の皆さんは様々なプロジェクトに取り組んでおられ、委員会としてどのプロジェクトに注力していくかを検討しております。より活性化するよう、例えば点で行われているプロジェクトを面として結び付け、もっと広報していく、支援していくことでより発展できるのではと考えています。

プログラム３

「まちづくり取組発表」

①「堺旧港周辺」堺市

堺旧港周辺は、南海堺駅の徒歩圏内に位置するウォーターフロントとして、海を囲うように整備されたプロムナードによる美しい景観を有しています。

商業機能や歩行者デッキ等の整備運営を一体的に行う大浜北町市有地活用事業の実施や、交流空間創出の社会実験として、プロムナードを開放し、仮設店舗や音楽ライブ等を行う「乙姫の休日」を開催。また、大阪港湾局と連携し大阪港と結ぶ海上交通の社会実験を実施しています。

今後、堺旧港交流空間創出事業として、施設建築、護岸上の仮設物の設置、水面活用等を一体的に行い、居心地がよい海辺の交流空間創出をめざします。

②「二色の浜ブルーパーク」貝塚市

二色の浜は、約1㎞に及ぶ大阪府を代表するビーチであり、多くの方が訪れる人気スポットになっています。

地元や民間企業とともに、浜に注ぐ河川の清掃活動、環境教育等の実施により水質が改善され、世界で最も歴史のある環境認証制度「ブルーフラッグ認証」を大阪府内で初めて取得しました。

誰もが楽しめるビーチとして車いすに乗ったまま海水浴が楽しめる体験会等も開催。

今後、国際的な観光地としての発展、環境保護活動の拡大、自然環境を活用し、地域経済の活性化などをめざしていきます。

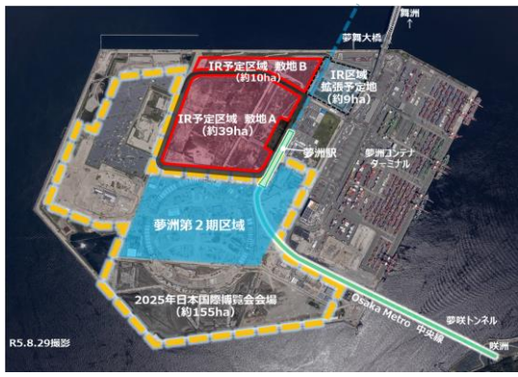
③「SENNAN LONG PARK」泉南市

SENNAN LONG PARKは、市が大阪府の公園用地を無償で借受け、PFI事業者に無償貸付し、公費を一切投入せず、民間資金による公園整備、維持管理、運営を実施する独立採算型事業です。

様々なポテンシャルを活かし、更なる魅力向上、年間を通じての観光誘客を図るため、季節やエリアごとにテーマやターゲットの異なる観光誘客イベントなどを実施しています。

隣接するサザンビーチと一体利用することで、数万人規模の人を収容でき、エリアとしての賑わいづくりを行っています。さらには、イベント等に来られた方が市内を周遊する仕組みも検討していきたいと思います。

④「夢洲第２期」大阪府



大阪のニシの拠点が「夢洲」をはじめとするエリア。今後、統合型リゾート、いわゆるＩＲや、2025年大阪・関西万博の開催と、その跡地活用などが進められます。

第２期区域では、万博後のまちづくりに向けた取り組みが進行中です。広大なエリアの開発を一体的に進めていくためのマスタープラン策定に向けた民間提案募集を開始。提案をふまえ、府・市において、夢洲第２期区域マスタープランを策定し、令和７年度後半から、マスタープランに沿った開発事業計画の提案を求めて、事業者の募集を開始していく予定です。

夢洲において世界に誇る魅力ある国際観光拠点の形成を目指し、引き続き、第２期区域のまちづくりを進めていきます。

大阪のまちづくりグランドデザイン　ベイエリアのまちづくりシンポジウム

大阪広域ベイエリア　まちづくりマップ

大阪広域ベイエリアの市町における取組や、大阪府の取組等をまとめました。
各市町１つの取組を紹介していますが、他にも様々な取組みが進められています。

別添
配布資料

大阪広域ベイエリア　まちづくりビジョン（案）

大阪・関西万博のインパクト等を、泉州地域沿岸部の地域資源を最大限に活用することで、ベイエリア全体の活性化、大阪・関西の発展につなげるため、ベイエリアの将来像を示し、活性化に関わる様々な主体の取組みの基本的な方向性を示すビジョン(案)を令和3年8月に策定しました。
関係者が連携し、民間投資を呼び込みながら、ベイエリアのまちづくりを推進します。

漁港周辺でのにぎわいづくり 〈田尻町〉

日曜朝市などで賑わう田尻漁港では、「大阪泉州牡蠣フェス」をはじめ、サンセットライブ等のイベントを開催。田尻スカイブリッジのライトアップも行うなど、漁港を中心としたにぎわいづくりを行っています。

SENNAN LONG PARKの魅力を活かしたにぎわいづくり 〈泉南市〉

日本の夕陽百選にも選ばれる絶好のロケーション、南北約２kmの広大なエリアに、地元の食、スポーツ、レジャーが体験できる、関西最大級のリクリエーション施設として注目のスポット。ここからエリア全体の活性化につなげていきます。

「はんなん海の学校」プロジェクト 〈阪南市〉

子どもや若者を中心に「海洋教育」に関する専門的な内容の講義や体験など気軽に学べる機会を提供。ＳＤＧｓの理念を踏まえた持続可能な取組として「海洋教育」を地域に根付かせ、地域への愛着を醸成しています。

深日洲本ライナーの運航 〈岬町〉

岬町の深日港と淡路島の洲本港を55分で結び、スポーツサイクルを積載できる「深日洲本ライナー」が期間限定で運航。
※11月4日(月・祝)までの土日祝限定運航
広域観光ルートの形成と広域サイクルツーリズムを推進しています。

木材港地区貯木場利活用に向けた取組 〈岸和田市〉

岸和田市と忠岡町にまたがる木材港地区貯木場は、木材輸入の形態の変化により長年に渡り低利用状態となっています。先端産業や研究機関の集積により、大阪の中核を担う拠点としての活用を目指し、各種調査を実施し、関係機関との協議を進めています。

二色の浜ブルーパーク 〈貝塚市〉

国際環境認証「ブルーフラッグ」を府内初取得。車いすに乗ったまま海水浴が楽しめるユニバーサルビーチ体験会など「きれいで安全で誰もが楽しめる優しいビーチ」を実現。周辺の公園等と一体でベイエリアの魅力を高める取組を展開していきます。

木材港地区貯木場の新規土地造成による先端産業集積地の形成 〈忠岡町〉

原木輸入量の減少により遊休水面となっている貯木場の埋立事業化を検討しています。阪神高速道路湾岸線による関西国際空港との交通利便性を活かし、先端産業の誘致などで地域振興を図ります。

りんくうタウンのにぎわいづくり（りんくうまちづくり協議会） 〈大阪都市計画局〉

りんくうタウン内の立地事業者、地元市町、大阪府等42団体が連携・協力し、まちの魅力や集客性を高める取組を行っています。

提供：2025年日本国際博覧会協会

夢洲第２期 〈大阪都市計画局〉

夢洲では新たな国際観光拠点の形成を目指しており、2025大阪・関西万博跡地である本区域では万博の理念を継承したまちづくりに取り組んでいます。

堺旧港の護岸を活用した交流空間創出の社会実験 〈堺市〉

堺旧港親水護岸をレクリエーションの場として実験的に開放し、美しく整備された親水護岸や開放的な海辺を活かした社会実験を実施し、交流空間の創出を進めます。

(仮称)高石市砂浜活性化プロジェクト 〈高石市〉

絶景の夕日スポットである、大阪府最北端の天然の砂浜を地域資源として活用し、大阪の海の歴史の周知や、海の生物、環境への意識を高めるとともに、人々の交流を促進します。

シーパスパークによるにぎわいづくり 〈泉大津市〉

令和５年に新しく完成した港湾エリアに隣接する公園「シーパスパーク」にて、９月21日・22日に『IZUMIOTSU WELL-BEING EXPO 2024』を開催。これらの取組により万博の機運醸成とにぎわい創出を進めます。

「美術館のあるまち」の推進（和泉市久保惣記念美術館） 〈和泉市〉

令和７年、年間通してストーリーのある浮世絵展を開催。秋には大阪・関西万博を記念し東西交流をコンセプトとした特別展も開催。「美術館のあるまち」としてイメージアップを進めます。

熊取らしい魅力を備えた逸品「くまとりやもん⤴」の発信 〈熊取町〉

町産ブルーベリーを使用したスイーツなど、町内の優れた商品をブランド認定（現在53品）する取組を行っています。これにより地域経済の活性化・町の知名度向上を図っています。

スケートリンクを核としたまちづくり 〈泉佐野市〉

スケートリンクを核とした、豊かな緑と賑わいあふれる公園的空間のまちづくりを進めています。エリア内には、アイスアリーナ、芝生広場、あさひ賃貸りんくうステージなどの施設があります。りんくうタウンエリアの賑わいづくりに努めていきます。

自転車で“つなぐ” 〈大阪府 等〉

周遊（スタンプラリー）の取組

各地の魅力ある地域資源をつなぎ自転車による周遊魅力の向上を図ります。

“サイクルライン”の整備

自転車で、安全、快適に周遊できる環境整備に向けて、広域的な自転車通行環境の充実に取り組んでいます。

海上交通で“つなぐ” 〈大阪港湾局〉

2025年大阪・関西万博を契機とした、海上交通による大阪ベイエリアの交流機能の充実に向け、堺旧港において海上交通社会実験を実施しています。

地理院タイル を加工して作成